

1. キャリア教育とは

はじめに

情報化やグローバル化など、変化が激しい社会の中であって、子どもたちが、自らの力で生き方を選択し、社会人・職業人として自立し、役割を果たしていくためには、目的意識をもって、主体的に変化の激しい世の中に対応していくことができる力と態度を身に付けることが不可欠です。奈良市では、将来を見据えた望ましい勤労観、職業観を育てるキャリア教育により、「夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く力」を育てます。

(1) キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、
必要な基盤となる能力や態度を育てることを
通して、キャリア発達を促す教育



この社会でよりよく
生きるために必要な力を
育てる教育

キャリア

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割※の価値や
自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

キャリア発達

社会の中で自分の役割を果たしながら、
自分らしい生き方を実現していく過程



自分らしい生き方

生涯の中で、その時々自分にとって重要性や意味に応じて、様々な役割を
果たして活動すること

※「役割」について

人は生まれたときから、人や社会とのつながりの中で、
様々な役目を担います。
(例、子ども 学生 社会人 親 配偶者 など)

(2) なぜキャリア教育が必要なのか

日進月歩で「知」が刷新されていく知識基盤社会において、「学び続ける力」つまり「学習意欲」が必要とされています。奈良市の子どもたちの全国学力・学習状況調査の質問紙調査を見ると、本市の子どもたちの学習意欲に関わる項目が、全国平均を下回っています。また「国語（算数・数学）の勉強は大切だと思いますか」という質問でも、中学校で全国平均を下回っています。これらの結果から、「学習意欲の向上」と「教科を学ぶ意義を実感すること」が奈良市の課題と捉えることができます。

キャリア教育は、これらの課題を克服し、「生きる力」を育てる教育です。生き方の自覚を深め、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の精神を養い、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができる教育として「キャリア教育」が求められています。

奈良市の子どもの課題

学校から社会への移行をめぐる課題

- ①今の学習が将来に役立つという意識が低い。(学びと社会がつながっていない)
- ②地域や社会をよくするために何をすべきか考える気持ちが弱い。

子どもたちの学習に対する課題

- ①必要な情報を取り出して自分の考えをまとめる力が弱い。
- ②自分で課題を立て、情報を整理して調べたことを発表する活動が少ない。

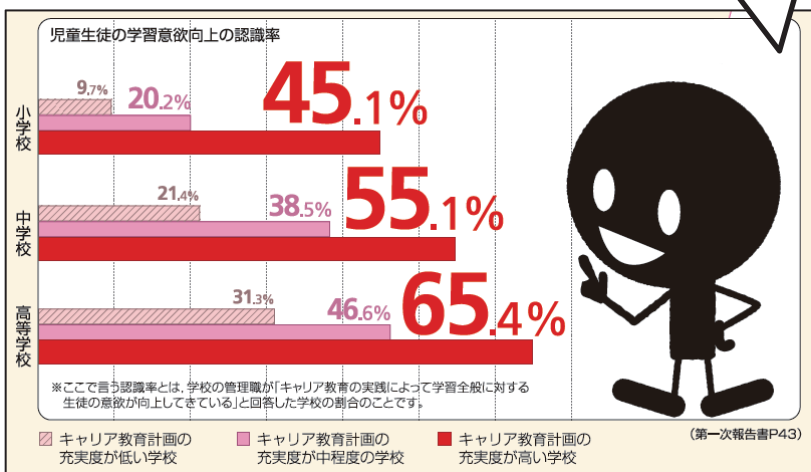
奈良市が目指す子どもの姿

夢と誇りを持ち、社会をたくましく生き抜く力の育成

社会人として自立した人を育てる視点から

- ・よりよい生活や学習を目指して、自ら課題を見つけ解決していくことができる。
- ・様々な方法を用いて、生き方や進路に関する情報を収集・整理し、それらを基に将来を考えることができる。
- ・異年齢の集団や地域の人の中で、自分の役割を認識しながら活動することができる。
- ・自分の夢を自分の言葉で語ることができ、実現のために努力できる。

計画的な
キャリア教育は、
児童生徒の
学習意欲を
向上させる！



2. キャリア教育で育む力

2

(1) 「基礎的・汎用的能力」と「奈良市キャリア教育で育てる4つの力」

奈良市のキャリア教育を通して、社会的・職業的自立に向け、キャリア発達を支援し、一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度・能力を育てていきます。このような力を文部科学省では「基礎的・汎用的能力」といい、この能力には、4つの力があります。奈良市では、この4つの力を分かりやすくまとめ直し「関わる力」「活用する力」「挑戦する力」「見通す力」として表しています。

はんよう 基礎的・汎用的能力

人間関係形成・ 社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分が置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

自己理解・ 自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

キャリア プランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

「詳しくは、文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』13-17ページ、『中学校キャリア教育の手引き』21-24ページ、『高等学校キャリア教育の手引き』21-24ページを参照。

奈良市キャリア教育で育てる 4つの力

関わる力

- ・互いの立場や役割の必要性を理解できる力
- ・集団における自分の役割を理解し、その責任を果たすことができる力
- ・社会に対する役割や責任を果たそうとする力

活用する力

- ・自分の調べたことやまとめたことを発表する力
- ・情報を理解・選択・処理する力
- ・メディアを活用しながら発信する力

挑戦する力

- ・自分の力で解決する力
- ・課題を見つける力
- ・自己の動機付け
- ・前向きに考える力
- ・課題を設定し、解決しようとする力
- ・レジリエンス（困難な出来事を克服し、立ち直る力）

見通す力

- ・計画立案する力
- ・原因を追究する力
- ・興味や関心を広げていく力
- ・将来設計をし、実現しようとする力
- ・学ぶこと・働くことの意義や役割を理解する力
- ・生き方や進路に関する情報を収集・整理し将来を考える力

(2) 小中一貫教育におけるキャリア教育

奈良市キャリア 夢と誇りをもち社会

社会に出た時の姿

協働しながら地域を支える

情報を活用して新しい価値を見出す

キャリア教育でめざす子どもの姿

異年齢の集団や地域の人の中で、自分の役割を認識しながら活動することができる

様々な方法を用いて、生き方や進路に関する情報を収集・整理し、それらを基に将来を考えることができる

関わる力

身の回りの人と関わる力をつけることによって・・・

高等学校

- ・将来の自分の家庭や、社会に対する役割や責任を果たそうとする。

後期

- ・人間関係の大切さを知り、集団における自分の役割を理解し、その責任を果たす。

中期

- ・異年齢集団の活動に参加し、役割と責任を果たす。
- ・互いの立場や役割の必要性を理解し、自ら進んで奉仕の心をもって行動する。

前期

- ・自分の考えを言ったり、人の話を聞いたりする。
- ・互いの立場や役割の必要性を理解し、困っている人の役に立つ。

就学前

- ・自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く。
- ・身近な人とかわりをもち、感謝したり人の役に立つことを喜んだりする。

活用する力

情報を収集し、活用する力をつけることによって・・・

高等学校

- ・将来について収集した情報を基に、自分の考えを交え、メディアを活用しながら発信する。

後期

- ・様々な職業があることを知り、生き方や進路に関する情報を収集・整理し、将来を考える。

中期

- ・自分の調べたことやまとめたことを様々な方法で発表する。
- ・自律的で責任ある行動をする。

前期

- ・身近なことに興味・関心を持ち、いろいろな方法で伝えることができる。
- ・自律的で責任ある行動をしようとする。

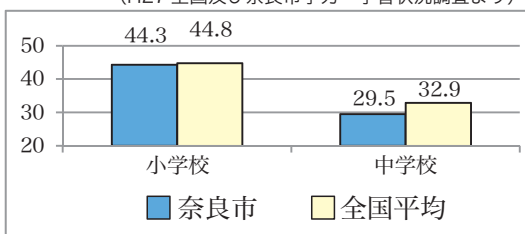
就学前

- ・気付いたり発見したりしたことをいろいろな方法で伝えようとする。
- ・身近な環境にかかわり、遊びや生活の中で自分なりに使ったり取り入れたりする。

現状として…

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に「はい」と答えた割合が低い

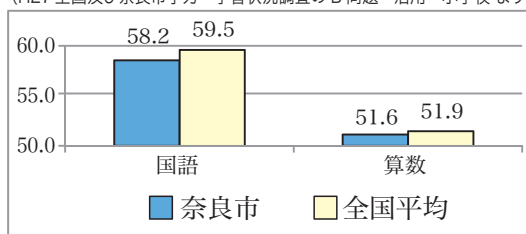
(H27 全国及び奈良市学力・学習状況調査より)



現状として…

必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめるなど、「活用」する力が弱い

(H27 全国及び奈良市学力・学習状況調査のB問題・活用一小学校より)



ア教育の推進 を生き抜く力の育成

未知なるものに挑戦する

興味・関心をもち続け、新しい目標を設定し続ける

よりよい生活や学習をめざして、自ら課題を見つけ解決していくことができる

自分の夢を自分の言葉で語ることができ、実現のために努力できる

挑戦する力

困難なことにも向かっていく力をつけることによって・・・

高等学校

- ・将来の目的実現に向けて課題を設定し、解決しようとする。

後期

- ・よりよい生活や学習をめざし、自ら課題を見つけることの大切さに気付きながら、課題の解決に取り組む。

中期

- ・生活や学習上の課題を見つけ、仲間と協力して解決する。
- ・身の回りで起こった出来事に対して、前向きに解決しようとする。

前期

- ・自分で取り組むことを決め、自分の力でやり切ろうとする。
- ・自分の力で課題を解決しようとする。

就学前

- ・自分で考えて行動する。
- ・課題を乗り越えようとする。

見通す力

困難なことにも向かっていく力をつけることによって・・・

高等学校

- ・将来設計、進路計画を立て、その実現に向けて必要な努力をする。

後期

- ・夢や希望を職業に結びつけ、その実現に向けて必要な努力をする。

中期

- ・将来を考えることの大切さを知り、大人になったとき、どんな仕事をしたいか考え、今できることを行動に移そうとする。

前期

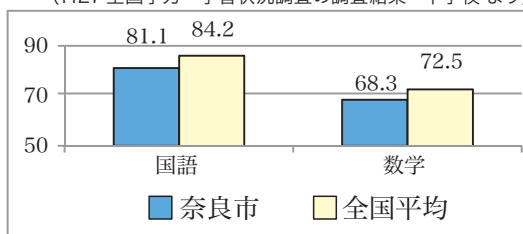
- ・問題解決に向けて、物事を順序立てて考える。
- ・自分でやりたい事に進んで取り組んだり、将来の夢や希望をもったりする。

就学前

- ・目的に向かってじっくりと取り組もうとする。
- ・興味や関心を広げて活動する。

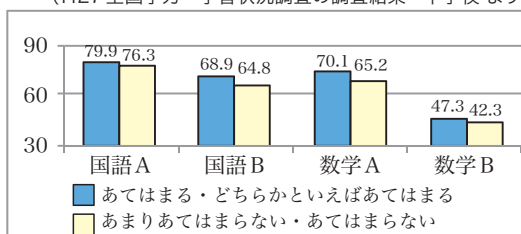
現状として・・・

学習意欲にかかわる質問項目において、肯定的回答の割合が全国を下回っている。「学ぶ意欲」の低さ
(H27 全国学力・学習状況調査の調査結果－中学校より)



現状として・・・

「自分で課題を立てて情報を整理して調べたことを発表する活動に取り組んでいる」と答えた生徒の方が「当てはまらない」と答えた生徒よりも国語、数学の平均正答率が高い
(H27 全国学力・学習状況調査の調査結果－中学校より)

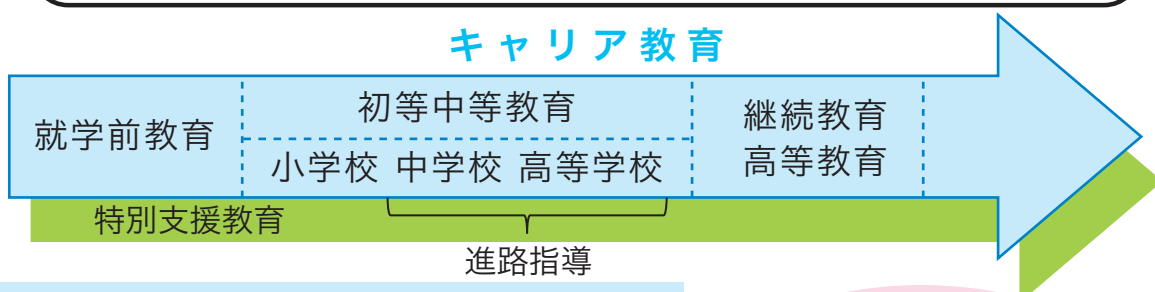


(3) キャリア教育と進路指導の関係

進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教職員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。
(中央教育審議会答申 H23.1)

キャリア教育も進路指導も、教育活動全体を通じ、計画的、組織的に行われるものであり、その定義・概念やねらいもほぼ同じです。

一方で、進路指導が対象を中学生、高校生に限定されるのに対して、キャリア教育は、就学前教育から初等中等教育・高等教育を貫き、また学校から社会への移行に困難を抱える若者を支援する様々な機関においても実践される教育です。



■留意点

- ・ 集中的視点 ⇒ 系統的支援
- ・ 進路指導の充実

⇒長期展望に立った人間形成

これまでの「学び」が
今の自分に！
今の「学び」が将来の
自分や社会に！

キャリア・カウンセリング

～今の学びが何につながっているかを意識した対話～

キャリア・カウンセリングは一人一人の児童生徒とのコミュニケーションを通して、新たな環境への移行や未経験の学習課題への取組の際に生ずる不安の解消を図ると同時に、新たな環境や課題にスムーズに取り組めるようにする個別の支援のことです。

小学校では、新しいクラスに馴染めない児童に自力解決を促す言葉かけや行事で活躍した高学年の児童をさらに良いリーダーにするためのアドバイスなど、日常的に支援が行われています。児童一人一人のキャリア発達を促すため、これらを積極的に行うことが大切です。中学校では、教育相談週間を定期的に設けることで、生徒理解を深め、個別支援を図る取組を進めている学校が多く見られます。面談を通して、生徒が自分自身の成長を実感し、将来を見通し、前向きに進もうとする意欲を高めることが大切です。

キャリア・カウンセリングは、授業中における短いやりとりや、休み時間などでの何気ない会話が糸口になることも多く、教職員はそれらの機会を逸さないよう、常にコミュニケーションスキルを向上させることが求められます。